

国語 - 8 (第3学年) 考えをまとめたり, 意見を述べ合ったりする事例
【学習活動の概要】

1 単元名 司会や提案の仕方を工夫し, 話し合っって考えをまとめよう		
2 単元の目標 伝えたいことなどから話題を決め, 必要な事柄を挙げるとともに, 司会や提案などの役割を果たしながら, 進行に沿って話し合うことができる。		
3 評価規準 【国語への関心・意欲・態度】 ・話し合うことによって課題を解決したいという意欲をもち, 役割を分担しながら, 提案したり意見を整理したり, 自分の考えを発言したりしようとしている。 【話す・聞く能力】 ・話題について学級全体で一つの考えに集約するのか, 一人一人の考えをそれぞれに深めることを目指すのかなど, 話し合いの方向性を共通理解している。 ・司会者として話し合いの方向性や柱立てを明らかにし, 進行したり意見を整理したりするための言葉を考えている。 ・司会者や提案者, 参加者などの役割に応じ, 話し合いの目的や方向性をとらえて, 互いの考えの共通点や相違点を整理して進行に沿って話し合っている。 【言語についての知識・理解・技能】 ・感想や意見を伝えたり, 共有したりするために, 適切な言葉で自分の考えを表すことが大切であることに気付いている。		
4 教材 学級やグループでの話し合いの仕方を取り上げた教科書教材		
5 主な学習活動(単元の指導計画(全6時間))		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次	<p>学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学級全体やグループでの話し合いを振り返り, 司会や提案などの役割を果たして話し合うにはどのようなことに気を付ければいいのか, 意見を出し合う。 学級やグループで話し合いたい話題を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの話し合いの様子を録画した映像を視聴し, 話し合いの仕方についての課題点を明らかにする。
第2次	<p>学級全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級全体で話し合う話題を決め, 司会者や提案者などの役割を分担する。 話題について話し合うための準備をする。 司会者(1名)...教師と進め方を確認し, 進行するための言葉を考える。 提案者(1名)...提案内容と提案理由を考える。 フロア(その他全員)...話題について自分の考えとその理由をはっきりさせる。 学級全体で話し合う。 話し合いのビデオ記録を再生しながら, 話し合いの仕方を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体で話し合うことによって, 何をどのように話し合うとよいかについて, イメージを共有した上で, グループでの話し合いに展開するように指導過程を組む。 学級全体で考えを一つにまとめる必要のある話題を設定する。 司会者と提案者には, 個別に指導を行う。 学級全体で話し合いを振り返り, 次のグループでの話し合いをどのように行えばよいかの見通しをもてるようにする。
第3次	<p>グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 6人グループで話し合うために, 話題と役割を決めて準備する。 グループで話し合う。(15分×3回×2時間) 2つのグループが組になり, 交互に相手のグループの話し合いの仕方を見て, 意見を述べ合う。 話し合いを振り返り, 学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体での話し合いの際と同様に準備を行う。 全員が司会者または提案者を経験できるようにする。 2つのグループが交互に相手のグループの話し合いを見て, 相互評価できるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・国語の第3学年及び第4学年「A 話すこと・聞くこと」の指導事項「A 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。」「お互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。」を取り上げて指導するものである。

その際、「A 話すこと・聞くこと」の言語活動例に示す「イ 学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。」を通して指導することにより、指導の効果を高めた事例である。

【言語活動の充実の工夫】

本事例では、司会や提案の役割を果たせるよう、以下の点に留意して指導を行っている。

司会の指導の工夫

司会を行うためには、話し合い全体を見通して司会の準備をすることが求められる。具体的には、以下のような点について留意して司会を務められるよう、本単元のみならず、様々な機会をとらえて徐々に指導していく必要がある。

話し合う目的を確認する。

目的を明確にすることで、一つに絞るのか、考え方を整理するのか、多様に考え方を列挙するのかなど、話し合いの方向性を確認する。

- (例)
- ・様々な意見を出し合い、共通点や相違点を比較して一つに結論を絞る。
 - ・様々な意見を出し合い、いくつかに分けて整理し、その後に活動する際、その整理に基づいて行動できるようにする。
 - ・多面的に考えられるように多様な意見を出し合い、各自のその後の行動の際の手掛かりにする。

話し合いの結論を、どのようにまとめるのかについて見通しをもつ。

話し合いの結論（一つの結論を見いだすのか、考えを整理すればよいのか、など）は、話し合う目的に規定される。話し合いの結論をどうまとめるのかについて、あらかじめ見通しをもつことによって、計画的に話し合いを進めることができるようになる。

結論にもっていくための柱立てを考える。

話し合いの時間配分を考えながら、どのような柱立てで話し合うのかをあらかじめ想定しておく。

進行するための具体的な発言の仕方を考える。

冒頭に話し合いの目的やゴールを示す場合や、意見が出ない場合、話し合いが話題からずれて軌道修正する必要がある場合など、司会者として具体的にどのように発言するのかをあらかじめ想定しておく。

提案の指導の工夫

提案を行うためには、何が課題か、どのようにすることを提案するのか、その理由は何かなどを明らかにする必要がある。例えば、次のような点について留意して提案できるよう指導することが求められる。

- ・提案の具体性（何を、いつまで、どのようにするか など）
- ・提案理由の明確さ（提案に従って実行する価値があるか など）
- ・提案に基づいて実行する際の手順の明確さ（実行するための具体的方法 など）
- ・提案に基づく行動の実現可能性（話し合いの参加者が実際に行動することが可能か など）

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ,